

## 男子ホッケー日本代表チーム オーストラリア遠征

日付	2012年4月1日 14:00~		
場所	National Hockey Center	天候	曇り時々雨
試合	第4戦	通算結果	日本1勝3敗

Country	RESULT		Country
日本 JAPAN	Full Time	1 - 7	オーストラリア AUSTRALIA
	Half Time	0 - 1	

Start	No.	Name	Card
✓	1	小澤 和幸	
✓	2	三澤 孝康	
✓	3	粥川 幸司	
53	4	川上 良平	58'G
8	5	塩川 直人	
10	6	三谷 元騎	
DNP	7	長岡 俊輔 (GK)	
DNP	9	古里 竜二	
✓	10	穴井 善博	
6	11	北里 謙治	
✓	12	坪内 一浩	
✓	14	長澤 克好	
DNP	15	山下 学	
DNP	17	橋 敏郎	
10	18	福代 勇太	
✓	19	川上 啓 (C)	
✓	20	高瀬 克也 (GK)	
✓	22	小野 知則	
✓	23	坂本 博紀	
✓	24	田中 健太	
監督		姜 建旭	
UMPIRE		GENTLES David(AUS)	

Start	No.	Name	Card
✓	1	DWYER Jamie	
4	4	TURNER Glenn	
✓	5	CIRIELLO Chris	
4	6	HAMMOND Rob	
✓	8	BUTTURINI Matthew	
✓	9	KNOWLES Mark	
✓	11	OCKENDEN Eddie (C)	
✓	15	CARROLL Joel	
6	19	DEAVIN Tim	
6	20	SWANN Matt	
✓	24	PATERSON Mark	
✓	26	BAZELEY George(GK)	
✓	27	GOVERS Kieran	
✓	28	BROWN Kiel	
3	29	BEGBIE Graeme	
✓	32	ABBOTT Desmond	
監督		CHARLESWORTH Ric	
UMPIRE		VERSTEEGH Stephen(AUS)	

Country	Min	Name	Action	Score
AUS	26	GOVERS Kieran	PC	0-1
AUS	37	GOVERS Kieran	FG	0-2
AUS	44	HAMMOND Rob	FG	0-3
AUS	64	DWYER Jamie	FG	0-4

Country	Min	Name	Action	Score
AUS	64	GOVERS Kieran	FG	0-5
AUS	64	HAMMOND Rob	FG	0-6
JPN	66	長澤 克好	PC	1-6
AUS	68	TURNER Glenn	PC	1-7

オーストラリア代表チームとの最終戦。この日は日曜日という事もあり、大勢のホッケーファンがスタンドを埋め尽くす中、試合開始のホイッスルが吹かれる。序盤からアクセル全開のオーストラリアに対し、防戦一方の日本だが、この試合でも粘り強いディフェンスと、厳しいマンツーマンマークで決定的なシーンを作せない。なかなか点が取れない展開に、さらに攻撃に厚みをもたせて畳み掛けようとするオーストラリアであったが、逆に積極的なインターセプトからカウンターチャンスを作る。しかし日本の攻撃はサークル手前でブロックされ、シュートチャンスを作ることができない。すると26分、この日1本目となるPCを与えてしまうと、ドラッグフリックを右下に決められ、先制点を献上してしまふ。その後は中盤でのつぶし合いが続き、両チームともチャンスらしいチャンスを作る事無く前半を終了する。

なんとしても一矢報いたい日本であったが、後半開始直後の37分、サークル左からドリブル突破を許し、最後はサークルトップから豪快なシュートを決められてしまふ。0-2とされてしまった日本だが、その後も積極的にゴールを狙い、40分にはオーストラリアのお株を奪うショートパスを駆使した攻撃で、最後は後方から走り込んだ#10穴井にパスが通るが、シュートはジャストミートせずにGKにセーブされてしまふ。前半からハイペースで飛ばし続けた日本。多くの時間を守備に費やしていたため、徐々にスタミナを奪われていく。ボール保持者に対してのプレッシャーが弱まり、マンツーマンマークにもズレが生じ始める。世界チャンピオンはそのチャンスを見逃さず、次々とゴールを奪う。それでも諦めずに戦う日本は、66分に得たPCのチャンスに#14長澤のフリックがゴール右上に決まり1点を返す。終了間際にも失点を許してしまひ、終わってみれば1-7の大敗を喫してしまつた。

3連敗でオーストラリアとのテストマッチシリーズを終えたわけだが、選手一人一人の粘り強いディフェンスと、チームとしてのプレスティフィエンスに関しては現世界チャンピオンに対しても十分に通用する事を証明出来た。オリンピック予選に向けては、さらにディフェンスに磨きをかけるとともに、ビルドアップの精度、ゴールスコアリングスキルの向上に取り組んでいかなければならない。

日本	4	シュート数	21	オーストラリア
	1	PC数	3	